

# 全港湾第39回中央委員会開催 18春闘方針確立、定年延長の前進に意欲



東京都大田区蒲田  
5の10の2  
**全日本港湾労働組合機関紙**  
(毎月1日発行)  
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)  
発行責任者  
真島勝重



一月二十二日から二十三日の日程で全港湾の第三十九回中央委員会を開催した。総勢一五五名が参加し、議長団に北海道地方の秋山光明中央委員、東北地方の鈴木紀彦中央委員を選出、熱心な議論をおこなった。

開会にあたり、松本中央執行委員長は「現在、盛んに人手不足ということが報じられている。一昔前であれば、すぐに待遇改善で人が集まってきた。しかし、今は違う。人手不足になると、規制緩和して新規参入させればよいとなり、競争で労働条件がどんどん下げられていく。そして、待遇が悪くなり更に人が来なくなるという悪循環に陥っている。この悪循環を変えてい

る。この悪循環を変えてい... 執行委員長からは「独禁法問題だが、このほど公正取引委... 来賓の全国港湾・糸谷中央... びかけた。... 執行委員長からは「独禁法問題だが、このほど公正取引委... 来賓の全国港湾・糸谷中央... びかけた。... 執行委員長からは「独禁法問題だが、このほど公正取引委... 来賓の全国港湾・糸谷中央... びかけた。」



寺島・始めたのは小学校一年生の時です。きっかけは兄がやっていたからです。実は兄弟全員が一度はホッケーを経験しています。前回のソチ五輪の時はケガで惜しくも代表を外れてしまったことになりました。テレビの前で試合を観戦して、応援していた時の率直な気持ちを教えてもらえますか。寺島・もちろん、代表選考時にはライバルとして競い合ったメンバーですから純粋に頑張っ



オリンピック出場を決めた寺島奈緒選手 (右)

ホッケーは体の接触が多いスポーツですが、外国選手と当たるとに恐怖は感じませ... 寺島・小さいころから、続けているので接触自体に恐怖は感じません。ただし、接触した時に体から無理な力がかかって、ケガをしてしまうことの方が怖いです。実際、ソチの時にケガをしたのも、同じ様な状況でした。試合に臨むにあたって、日本が勝つために必要なものは何だと思えますか。また、自分のアピールできるポイントは何でしょうか。寺島・外国選手に比べて日本選手はやはりサイズもパワーも見劣りする部分があるので、細かいパスや全員で攻守を行う、いわゆるチーム力が重要だと思えます。私も小柄ですが、だからこそ狭いスペースで相手とぶつかる技術や身体の使い方、守りにおいても体を使って相手のシュートを防ぐことでチームが盛り上がるので、全力でプレーして、いい雰囲気を持ってこれたらと思います。最後に、意気込みをお願いします。北海道地本書記次長 (伊藤勇武)

## 寺島奈緒さん 平昌五輪出場

北海道地方三ツ輪分会の寺島奈緒選手が二月九日から韓国で開催される冬季平昌五輪にアイスホッケーの選手として出場することになりました。五輪出場にあたり北海道地本が寺島選手にインタビューをおこなったのでここに掲載します。五輪出場の快挙を祝福するとともに、皆で声援を送っていきましょう。率直に代表入りが決まったと、自分が不完全燃焼で選考で、正直言ってどこか上の空から外れてしまっていたの... という気持ちがありました。

ソチ以降から平昌までどういった気持ちやモチベーションで臨んできましたか。寺島・ソチ直後はショックが非常に大きくて、このままホッケーを続けるべきか否か悩みました。しかし、「仕事とホッケーの両立で五輪の代表を掴む」ことが当初からの目標でもありましたし、ソチから平昌まで四年間という期間もあったので自分自身と改めて向き合い、考え直した結果もう一度挑戦しようという決意しました。普段車で行くような所を歩いて考える時間を作り、お寺巡りなどをして、とにかくリフレッシュに努めました。

得ることができた。産別統一交渉を発展的に継続させていきたい」と独禁法問題に進展がなかったことが伝えられた。総括答弁のポイント

は所信表明演説の中で、働き方改革を進める等と言っているが、労働環境を悪くしてきているのは与党自民党であり安倍首相ではないか。憲法改悪、労働法改悪を阻止し、憲法を変えさせない取り組みを強化していく必要がある。今年、沖縄では基地問題を争点とした選挙戦が続いていく。全港湾としてもオール沖縄と共闘していきたい。脱原発の取り組みについても、我々が丸



秋山光明中央委員 (左)、鈴木紀彦中央委員 (右)

二万円と六五歳までの定年延長の二点と決定した。要求の提出は二月二十日まで、スト権確立の確認も二月二十日まで。回答指定日については三月二十二日を基本としながら三月二十六日までを集中回答指定ゾーンとし、その後中央執行委員会を開催して情勢を分析し、二波、三派の行動を構えながらたたかっていくと

(片柳悦正)

# 全国港湾第一〇回中央委員会開催 魅力ある港湾労働の歴史を引き継ぎ産別闘争を強化

全国港湾連合会の第一〇回中央委員会が一月二十四日、二十五日に開催され、二四二名(全港湾からは五一名)が参加、議長団は石渡周二中央委員(検数労連)、赤松和吉中央委員(大港労組)が務めた。中央執行委員会を代表して糸谷中央執行委員長があいさつし「独禁法問題で産別最賃の回答が得られない状況が続いていたが、このほど公正取引委員会から、独禁法の取り締まり対象に当たらないとの見解を得ることができた。アメリカの港湾労働者は年収が一四万ドル(一七〇〇万円相当)もあると聞いている。一八春闘で大幅賃上げを目指し



た。たたかっている。そのの定年延長獲得に向け最大限努力していく」と参加者に一八春闘での決意のほどを述べた。

一八春闘要求について  
玉田書記長より一八春闘方針案の提案を受け、闘争の四本柱①産別制度賃金の引き上げ・大幅賃上げ、②産別協定の拡充、③港湾政策・港湾労働政策の確立、④憲法改悪や労働法制改悪に反対する取り

## 人命救助で消防総監から表彰を授与

関東地方東京支部東海連分会の須藤和行組合員が、十二月二十一日に東京消防庁総監から人命救助に対し総監賞を授与されました。以下、本人の手記によって報告します。

十二月二日(土)、この日は休日だったので、私は近所にあるスポーツジムにて軽く汗をながしていました。トレーニングが終わり帰ろうとしたところ突然「ドタドタ」とランニングマシンの方から音がしました。五〇代半ばくらいから人命救助に意識があたりませんでした。私は「大丈夫ですか」と大きな声をかけました。反応がなく、男性の呼吸をみますが息もありません。ここから私の闘いが始まりました。

この状況に気がついて二人の方が近くに来てくれていたので「AEDを持ってきてください!」もう一人の方には「一九番に電話をして!」と声をかけました。地下にあるジムなので携帯の電波が入らないこともあり、二人共その場から居なくなり一人になってしまいました。「大丈夫だ、落ち着け」と自分に何度も言い聞かせ持ってきたAEDが作動しました。倒れた方の体が数十センチ浮き上がり、そのあとに心臓マッサージを開始、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、必死だったのでよく覚えていますが、一〇〇回くらいは手で

きてくれたAEDからパットを取り出し体に張り付けた。AED講習は受けたことはありますが、実践では初めてです。

「ピーッ」と音が鳴り、一九番通報から戻ってきた方に「離れて下さい!」「AEDを作動します、離れて下さい」と指示をし「ドン」とAEDが作動しました。倒れた方の体が数センチ浮き上がり、そのあとに心臓マッサージを開始、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、必死だったのでよく覚えていますが、一〇〇回くらいは手で

年度予算補正案を含め、すべ出、三月十五日、十六日に中央統一行動をおこない、広く港湾労働者の要求をアピールしていくとした。また、全国春闘全体の進め方として、春闘全体の進め方として、二月七日に第一回中央港湾団交をおこない要求書を提出した。(片柳悦正)

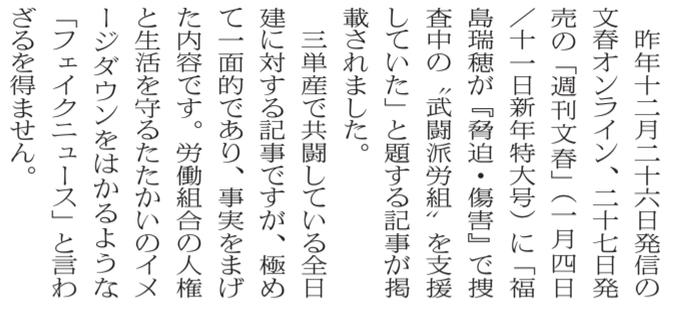
## 感謝状 須藤和行様

あなたは平成十九年十月五日、東京消防庁管内で発生した救急事故において、心臓停止状態に陥り生命の危機に瀕していた男性に対しAEDを活用した的確な救急処置を行い、救命したその功労顕著であります。ここに深く感謝の意を表します。

平成十九年十月十日  
東京消防庁  
消防総監 村上研

## 主・張

### フェイクニュースを許さない活動を 中央執行委員長 松本耕三



昨年十二月二十六日発信の文春オンライン、二十七日発売の「週刊文春」(一月四日/十一日新年特大号)に「福島瑞穂が『脅迫・傷害』で捜査中の『武闘派労組』を支援していた」と題する記事が掲載されました。

三単産で共闘している全日建に対する記事ですが、極めて一面的であり、事実をまげた内容です。労働組合の人権と生活を守るためのイメージダウンをはかるような「フェイクニュース」と言わざるを得ません。

報道にあるエム・ケイ運輸は、長時間労働、賃金未払い、法令違反を繰り返している典型的な「ブラック企業」です。全日建連帯労組の要求に対し、まったく改善しようとしていないばかりか、第三者を使って組合員を脅迫する事件を起しています。一昨年十一月には、会社に敷地内で、種渡分会長に全治二か月の重傷を負わせる襲撃事件が起きました。特に、分会長襲撃事件は、会社の敷地内で襲撃集団が待ち受けていたことを見れば、会社の関与は濃厚でし

た。もちろん、全日建の組合員は抗議行動を厳しく行ったし、社民党福島議員も法令違反の是正を要請してくれたのです。しかし、この文春報道だけを見るならば、真逆の印象を持ってしまふことになり

このような、マスコミの偏向報道は、労働組合の反発の世論作りにつながるとも、社会全体の反動化をもたらすものです。労働組合の正当な権利闘争に対する偏向報道を許してはなりません。

近年のマスコミ報道については、港湾労働でも幾度か警鐘を鳴らしてきましたが、かならずしも、参考資料の引用も不適切であるとして沖繩県姿勢を曲解させるミスリードの声が上がっています。

戦争を阻止し平和を守ることに、権力者の暴走を食い止める正当化しており、戦争に対する危険性や平和を守る努力を正当化しており、戦争に対する危険性や平和を守る努力を正当化しており、戦争に対する危険性や平和を守る努力を正当化しており、戦争に対する危険性や平和を守る努力を正当化して



かけた時です。男性が「う、お、あれ、あれ」と息を吹き返す意識が戻ったのです。私は「本当に良かった」と安心して居る時に救急隊が到着し、その後は救急隊に引き継いでいただきました。

数分間の出来事の中に諦めかけた時もありましたが、咄嗟の判断で無我夢中で、まずは行動に移せた事が良かったと思っています。

その後、思いもよらずに消防総監から表彰を受け自分自身誇らしく思った年末でした。今後の運動でも、あわてず、諦めずに行動することを改めて感じたいです。

(東海連分會 須藤和行)



# 東北地区FOCC・POCC 対策連絡会議



十二月二十一日、ハーネル仙台会議室に於いて、二〇一七年度の東北地区FOCC・POCC対策連絡会議が開催され、東北地区港湾の各県の議長・常陸那珂港湾議長・検数労連・全日通・全日本海員組合とITFコーディネーターの大堀氏、総勢一九名が参加して会議と学習会が行われました。審議事項については、

①構成員の確認とFOCC・POCCキャンペーンの活動について②今後の海員・港湾の協力体制について協議し、キャ

ンペーン活動については、年三回の開催を予定し、今後の協力体制についても満場一致でしっかり取り組むこととなりました。

②厳しい国内法から逃れられる③安い賃金で雇用(外国人)出来る④労働組合との関係を切ることが出来るなどの理由で船籍を移していることが分かりました。この様に儲けた利益を租税回避地(タックスヘイブン)のパナマ・パラダイス文書)日本のタックスヘイブン(租税回避地)肥やしているのがパナマ・パ

# 地方版



## 海 日検直雇用訴訟と 第四回日検本部抗議行動

昨年十一月二十八日、名古屋支部と阪神支部の日興サービス分会の組合員一六名が、偽装請負により日興サービス(株)から派遣労働者として

受入れられていた日本貨物検査協会(以下「日検」という)に対し、労働者派遣法四〇条の六第一項に基づき、直接雇用を求むる訴訟を名古屋地方

裁判所に提訴しました。この裁判は、平成二十七年十月一日に施行された改正労働者派遣法により導入された「労働契約申込みなし」制度に基づき、偽装請負を行った派遣先事業者に対して直接雇用を求むる初めての訴訟です。当日、午後一時に訴状を提出した後、名古屋高等裁判所内にある司法記者クラブにて記者会見を行いました。

記者からの質問に対し、原告団の代表として上條分会長が、「働き方など日興サービ

スに入社以来、疑問に思っていたことが沢山あった。日検の制服を着て、日検の勤怠管理の下で働き、初めから実態は派遣であった」と訴えまし

た。日検は日興サービス設立当初から業務委託契約を締結して、同社から労働者を派遣させ、指揮監督をし、検数業務に従事させてきたのですが、そもそも検数業務などの港湾運送業務は、国土交通大臣の許可を受けた者によって営まれ、検数業務においては港運事業免許を持たない日興サービスには再委託できません。このように違法であるにもかかわらず、日検が業務委託に

見書記次長に参加して頂き、

より日興サービスから労働者を受け入れ使用してきたのは、派遣の期間制限があったことに他なりません。その日

検への抗議行動を中央本部諸

申入れ文書に関しても、昨年十月二十六日の抗議行動の時と同じで、文書を受け取らずに警察を呼ぶと言った不誠実な態度を終始しています。今回で四回目の抗議行動と

なっていますので、近隣住民の方々からも「頑張れ」や「応援しているよ」等の激励の言葉をかけて頂いており、今後労働者の雇用の安定確保が図られるためにも、私たちは裁判、抗議宣伝行動と全力でたたかいて進めていきます。最後に、港湾産別闘争の中心課題である「秩序ある港湾労働」の構築のために、裁判だけでなく全港湾・全国港湾の仲間へ訴え、支援を頂き港を直接雇用した上で、その労働条件を改善するために労使協議を行う以外に道はありません。裁判は様々な違法に加え、偽装請負・直接雇用拒否という違法を重ねる日検に法

## 九州 博多支部 旗納め餅つき交流を実施



十二月十七日、師走の北風が吹く青空の中、第三回九州地方博多支部旗納め餅つき交流会を執り行いました。博多中央港湾福祉センターにて、組合員・家族・子供達を含めた、総勢一〇〇人を超える人が集まり、盛大に開催されました。博多支部山中執行委員長の挨拶を皮切りに、日頃より博多港で働く体力自慢の若

手組合員達の大きな掛け声とともに餅つき交流会が開始されました。

今年、青女部主体で活動を行ない、昨年比べ参加人数も増え、着々と完成度を増

ました。日検に法的、社会的、道義的な責任を果たさせ、改正労働者派遣法の目的である派遣労働者の雇用の安定確保が図られるためにも、私たちは裁判、抗議宣伝行動と全力でたたかいて進めていきます。最後に、港湾産別闘争の中心課題である「秩序ある港湾労働」の構築のために、裁判だけでなく全港湾・全国港湾の仲間へ訴え、支援を頂き港を直接雇用した上で、その労働条件を改善するために労使協議を行う以外に道はありません。裁判は様々な違法に加え、偽装請負・直接雇用拒否という違法を重ねる日検に法

ラダイス文書によっても明らかになりました。このFOCC船による問題は安全に対する経費までも削減し利益だけを追求することによって、①船の衝突や転覆事故②船舶や貨物の損失③雇用や職場の消失など様々な問題が挙げられます。我々にとってもこのよ

うな船での作業は危険を伴います。キャンペーン活動によってFOCC船を撲滅することは、大変重要な取り組みであることが理解出来ました。現在、ITFが指定するFOCC国は三五ヶ国あると言われています。その中のカンボジアでは、国の方針としてF

OC船をやめるという動きに出ているそうです。世界的にもこのような取り組みが加速することを願いつつ、我々も海員・港湾が力を合わせ今後の取り組みの強化を確認できた学習会になりました。(東北地方八戸通運支部 吉田一夫)



ましたが、参加者一同、笑い声が絶えない交流会になりました。屋には、ぜんざいや長崎郷土料理のいり鍋をもち米で作ったおにぎりと一緒に参加者全員で食べ、三つの鍋が十数分でなくなるなど、嬉しい悲鳴もあり来年に向け良い感触も実感出来ました。旗納め終盤には、子供達にお菓子の詰め合わせを配り、子供達の笑顔が心に残ります。そして、八〇キロあったもち米も無くなり、無事に第三回餅つき交流会を終える事が出来ました。今後も、各支部・各地方の方々と交流を深め、今後の全港湾を担っていきける勉強と活動に頑張っていきたいと思

九州地方博多支部 青女部部长 陳ケ尾 俊

(名古屋支部 西脇 敬)